

重要文化財 岐阜県元屋敷陶器窯跡出土品



元屋敷窯跡
(連房式登窯)



元屋敷東1号窯跡出土遺物



元屋敷東2号窯跡出土遺物



元屋敷東3号窯跡出土遺物



元屋敷窯跡出土遺物

2月27日の文化審議会文化財分科会において、土岐市が所有する「岐阜県元屋敷陶器窯跡出土品」が国の重要文化財に指定されました。今回は、新たに重要文化財に指定された元屋敷陶器窯跡出土品について紹介します。

岐阜県元屋敷陶器窯跡出土品は、泉町久尻にある史跡・元屋敷陶器窯跡(国指定史跡・昭和42年指定)から出土したものです。元屋敷陶器窯跡は3基の大窯と連房式登窯からなる古窯跡群です。今回指定を受けた2041点の資料は、昭和24年の美濃陶祖奉賛会が行った発掘調査と平

成5年度から平成13年度までに土岐市が行った発掘調査によって出土したものです。安土桃山時代から江戸時代初頭にかけて生産された美濃焼の一括資料で、さまざまな種類の志野や織部といった製品をはじめ、匣鉢や円錐ピン、焼台などの窯道具や窯材など多種多様な資料を含んでいます。資料からは、当時京・大坂・堺などを中心に流行した茶陶や高級食器などを生産していたことが分かります。畿内の都市遺跡の発掘調査でも、元屋敷陶器窯で生産されたと考えられる製品が出土しています。

時流行した美濃焼の生産を考えると貴重な資料であり、美濃窯を代表する窯跡群からの出土資料として、その学術的価値の高さを評価されました。

美濃陶磁歴史館で開催中の特別展「織部—ソノ器、ヘウケモノ也—」では、織部の名品とともに今回指定を受けた出土資料を展示しています。今回の特別展では、織部焼の持つ色彩・造形・文様といった多様な魅力を紹介しています。この機会に、美濃焼の名品と新しく指定を受けた土岐市の文化財をご覧ください。

文化振興課 (内線556)